

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
技術戦略経営 Strategic Management of Technology		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	()	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
経済学、経営学Ⅰ・Ⅱ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
長江 庸泰	本館2F (研究室1)	月～木曜 9:00～16:00 (授業・会議時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
技術経営戦略とは、技術力の費用対効果を最大化し、事業を持続的に発展させるために、次世代の技術を創出し、戦略的イノベーションの推進を行い、研究・開発の効率化を図る企業マネジメントの体系である。本講義では「技術感覚」と「戦略思考」を身につけ、自分の頭で考え「問題発見・解決」に秀でた人材を育成する。				
授業の目標				
①「競争・市場環境と技術経営戦略（競争優位の基本戦略、技術と競争優位、価値連鎖と技術戦略、コトラーの新製品開発）」を習得できるようにする。 ②「技術戦略と研究開発マネジメント（研究開発プロセス）」を習得できるようにする。 ③「研究開発マネジメント（研究開発予算管理）」を習得できるようにする。 ④「知的財産権マネジメントとアライアンスマネジメント（企業間ネットワーク、アライアンスマネジメント）」を習得できるようにする。 ⑤「生産マネジメント（コモディティ化への対応戦略）」を習得できるようにする。				
授業の方法				
本授業は、講義、マルチメディア授業、デジタルテキスト、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク等を活用しながら、技術戦略経営に精通した人材育成を目指すものである。				
学習の成果（学習成果）				
①競争優位の基本戦略、技術と競争優位、技術戦略マネジメント、②研究開発マネジメントと製品開発マネジメント、③アライアンスマネジメントと生産マネジメント等の知識・概念に習熟し、1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、課題解決型のアクティブラーニングをビジネスシーンにおいて活用できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（シラバスの解説・授業の狙いと進め方・成績評価等）/レポート課題説明と出題			
第2回目	競争・市場環境と技術経営戦略①（競争優位の基本戦略、技術と競争優位、価値連鎖と技術戦略）			
第3回目	競争・市場環境と技術経営戦略②（技術革新と市場ニーズ、コトラーの新製品開発、製品開発プロセス）			
第4回目	技術戦略①（技術戦略策定プロセス、技術戦略策定プロセスの各機能）、（グループワークによるプレゼンとディスカッション①）			
第5回目	技術戦略②（技術戦略と参入障壁、技術ポートフォリオ、イノベーション）/レポート課題説明と出題			
第6回目	研究開発マネジメント①（研究開発プロセス）			

第7回目	研究開発マネジメント② (研究開発予算管理)	
第8回目	製品開発マネジメント① (製品開発プロセス、製品開発プロセスの効率化)、(グループワークによるプレゼンとディスカッション②)	
第9回目	製品開発マネジメント② (製品開発組織、プロジェクトマネジメント) / レポート課題説明と出題	
第10回目	知的財産権マネジメント (知的財産管理の必要性、知的財産権の利用・評価、知的財産権戦略)	
第11回目	アライアンスマネジメント① (アライアンスの必要性、アライアンスの種類・形態)	
第12回目	アライアンスマネジメント② (企業間ネットワーク、アライアンスマネジメント)	
第13回目	生産マネジメント① (生産管理、工程管理、I E)	
第14回目	生産マネジメント② (品質管理、資材購買管理)、(グループワークによるプレゼンとディスカッション③)	
第15回目	生産マネジメント③ (コモディティ化への対応戦略)	
事前・事後学習	事前学習(シラバスの学習ポイントを自分で調べ、質問事項等を準備しておくこと)・事後学習(ノートを見直しながら、1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜き、3)自分で調べ・学ぶ姿勢を身につけること)	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	以下の3点から評価する：①ノートに関し、創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。S評価の基準：上記参加態度を全て満たすもの。
レポート	30%	Sのレポートの評価：①創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に展開している、③課題の本質と学習成果が十分にまとめられている。レポート最新課題は、月1回計3回提出予定(締切は各月末)。
調査報告書		
小テスト	20%	グループワークによるプレゼンテーション力のS評価：①内容が創意工夫した発表となっている、②グループの意見が論理的に述べられている、③グループで協働し、積極的に質疑応答に臨んでいる。
試験	20%	期末記述試験
発表内容 (態度含む)	20%	Sのレポート発表評価：①創意工夫した発表となっている、②自分の意見をまとめながら論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。
その他		上記評価基準に基づき成績評価：S(傑出した内容)=90-100、A(平均を上回る内容)=80-89、B(平均的内容)=70-79、C(平均を下回る内容)=60-69、D(左記以外の内容)=0-59
教科書と参考図書		
長江庸泰作成の“デジタルテキスト[技術戦略経営 2019年度版]”を活用する。		
履修上の留意点・ルール		
<p>●実務経験(職種：会社役員、職歴：通算39年)</p> <p>本学の教育理念(想う人、考える人、行う人を創る)を体現する、「1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、自主創造の精神に基づく課題解決型のアクティブラーニング」を常に心掛けましょう。</p>		